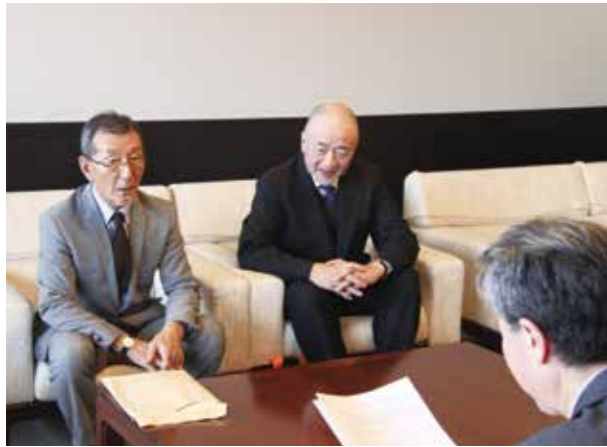


高取焼の魅力を伝承



ちくぜんのおがた 高取焼大茶会開催報告

3月12日、ちくぜんのおがた高取焼大茶会実行委員会の河面直人実行委員長と榊正澄副実行委員長が、同会開催報告に訪れました。

明治町および古町商店街周辺で4月30日に行われるこの大茶会では、茶道四流派による茶席を11カ所設けるほか、まち歩きツアー、陶芸体験等の催しを実施されます。河面委員長は「高取焼が直方発祥の地であることを知ってほしい」と話しました。市長は「茶の文化というのは素敵な文化です。心から成功をお祈りしています」と激励しました。



小さなご当地グッズは大きな努力の結晶



特別支援学校生徒が地域おこしグッズ 「成金饅頭マグネット」を製作

2月20日、直方特別支援学校肢体不自由教育部門の生徒が、地域おこしグッズとして「成金饅頭マグネット」を製作し、報告に訪れました。このマグネットは、高等部2人と中学部3人の計5人が、毎週月・金曜日に2時間ずつ行っている作業学習の一環で製作しました。

授業で直方市のことを調べる機会があり、そのとき訪問した大石本家の成金饅頭にヒントを得て製作。軽い素材の粘土を丸い型で抜き裏側に磁石を埋め込み、表面には、高等部1年の梶原真紀さん(16)が手作りした「ねじり梅」印を押印。直径約4.5センチの小さな成金饅頭マグネットの完成です。12月末から3月3日まで、大石本家店舗と、同店が平成筑豊鉄道「里山列車紀行 ひとつ星」の運行に合わせて出店している直方駅にて、1個300円で期間限定販売しました。

梶原さんは「皆をまとめることや工程の説明が大変だったけど、実際に販売して売れたことが嬉しい」と感想を語りました。市長は「成金饅頭の雰囲気を手く再現できている」と感心していました。現在は直方ポストカードを製作中の5人。今後も新たな直方グッズが生まれるかもしれません。

国土交通省による「川遊び・川での思い出・川への思い」をテーマとした絵手紙募集において、直方東小学校4年の飯屋燈永さんが小学生高学年の部で優秀賞(国土交通事務次官賞)を受賞し、2月23日に報告に訪れました。この募集は昨年7月の「河川愛護月間」に合わせて行われたもので、全国864点の応募の中から県下で唯一の受賞となりました。

飯屋さんは、野生の動植物や環境変化等を学ぶ遠賀川水辺館の「めだかの学校」に1年生のときから参加していて、プログラムのひとつである「遠賀川を描こう」で描いた作品を応募しました。川で遊ぶ子どもたちとともに、チョウやトンボ、サギといった生物が、水彩絵の具や色鉛筆で描かれています。飯屋さんは「生き物がたくさんいるのが楽しくて、それを描こうと思った。選ばれるとは思わなかった」と語りました。市長は「限られたはがき大というスペースに、川に住む生き物たちがたくさんいて、楽しさが伝わってくる」と感想を語りました。



たくさんの生き物と遠賀川を色鮮やかに表現



遠賀川への愛情を絵手紙に 飯屋燈永さんが国土交通事務次官賞を受賞

5 文化政策の一層の推進

昨年度から意欲的・意識的に文化政策に取り組みようになり、デジタル博物館の開館や石炭記念館のDVDの作成などを行ってまいりました。

また、文化政策の推進役となるべき財団法人直方文化青少年協会については、市職員を派遣するなどして文化政策について行政と財団の連携を強化し、より積極的な展開を図るよういたしました。

さらに、寄贈を受けた「筑豊文庫」の資料につきましても、本年度中に市立図書館において順次公開することとしており、「筑豊文庫」が担っていた知の拠点としての役割を継承し、様々な企画の実施をおして、地域の文化的創造を積極的に進めてまいります。

とりわけ本年度におきましては、直方、田川、飯塚に点在している石炭関連遺産を一括して国史跡として指定いただけるよう強く働きかけているところではありますが、その実現に向けて一層の努力を重ね、しかるべく成果を得たいと考えています。

また、伝統的芸能などに対して、その保存と振興のための補助金を新設しましたので、この点からも伝統的文化に対する支援を強化してまいります。

6 観光振興の推進

これまで観光については、直方市観光物産振興協会を中心に展開されてきたところですが、本年度から、同振興協会の運営に市が積極的に関わるようにし、市の観光施策を明確にし、その推進に積極的な役割を果たすことといたしました。

また、チューリップフェアにつきましては、皆様と一緒に頑張って、さらなる充実を図ってまいるとともに、魁皇関の故郷直方に対する偉大な功績をたたえ、感謝の気持ちを込めて、魁皇杯こども相撲大会の開催を予定しています。



浅香山部屋の魁渡さんと中泉小学校児童の取り組みの様子(昨年11月)

さらに、今後は、遠賀川河川敷における自転車道の開通を間近に控え、自転車や河川敷を活用した地域活性化に取り組んでまいります。

7 複合施設の建設

駅前予定されていた保健福祉センターについては、いったん白紙に戻して検討してまいりましたが、他の公共事業の財政負担と選択について一応の方針を示したことから、市民の方々が切望されていた保健福祉センターをはじめとして、老朽化の激しい他の公共施設を集約した新たな複合施設の建設に向けた取り組みを始めることといたしました。本年度は、その基本構想に関わる予算を計上するとともに、早期の建設と供用開始を目指して検討を進めてまいります。

8 人材の育成の推進と充実

最後に、市職員の人財育成についてであります。昨年度から、農林水産省や総務省などの中央省庁や衆議院法制局等へ職員を派遣するなどして、これまでにない人材育成を図ってまいりました。本年度もこれらの方針を維持し、より幅広い分野に職員を派遣し、一層充実した人材育成の取り組みを推進してまいります。